

リハ学科 就職活動が本格化

リハビリテーション学科の就職活動が本格化してきました。活動がほぼ終息する11月下旬頃まで、就職・実習支援課としても気の抜けない毎日が続きます。

学生の就活期間は、医学検査学科が年間を通じて、看護学科は毎年5～6月にピークを迎えるなど、学科によってまちまちです。リハビリテーション学科は9月下旬から活発化しており、就職・実習支援課では段階的に支援を展開しています。まずは、講義形式の「就勝ガイダンス」で就職活動に対する意識向上や知識習得を図り、その後、進路相談や履歴書・小論文添削、模擬面接などの個別支援へと移行します。ちなみに、履歴書・小論文添削、模擬面接は3学科合わせて年間計4千件にも上ります。

夏期休暇中は1日30人程の学生が就職・実習支援課を訪ねてきました。コロナ禍の影響で学外実習や課外活動が十分に行えなかったこともあり、「学生時代に頑張ったことがわからない」「学外実習に行けなかったことの就活への影響は」といった悩みや心配が多くなっているようです。だからこそ、より丁寧に学生に向き合い、強みや成長を引き出す支援の大切さを実感しています。

学生が夢に向かって頑張る姿は、私たち7人のスタッフのパワーの源です。笑顔で内定報告に来てくれる日を迎えられるよう、学生とともに精進してまいります。

(就職・実習支援課 中村美江)

模擬面接、履歴書添削：
スタッフ7人大奮闘

就職・実習支援課



医療機関などから送られてきた求人票に目を通す学生たち



学生(右)の相談に応じる就職・実習支援課のスタッフ

就勝ガイダンスの「勝」には、就職戦線を勝ち抜いてほしいという気持ちが込められています。リハビリテーション学科4年生を対象とした今年のガイダンスは、20(火)、21日(水)、Zoomを用いたオンラインリアルタイム形式で開催しました。就職活動に対する意識向上や知識習得を目的としていて、就職試験のポイントや小論文・履歴書対策講座、面接対策講座、求人票の見方講座やSNS対策講座、卒業生講演会などを実施しました。学生からは、チャット機能を利用してリアルタイムで質問が寄せられ、活発なやりとりがなされました。(就職・実習支援課)

合同就職説明会

リハビリテーション学科に向けた合同就職説明会を22日(木)、Zoomを用いたオンラインリアルタイム形式で開催しました。施設の情報を入手するとともに学生が自らの職業観を再確認し、進路決定の一助にすることを目的としています。リハビリテーション学科4年生と、実習中のOTを除くPTとSTの各3年生を対象に、熊本県内外から103施設が参加しました。学生からは「就職活動への意欲が高まりました」、施設からは「マスク着用がなく表情が見られたのが良かったです」などの感想がありました。

(就職・実習支援課)

就勝ガイダンス

リーダー学生10人 協働の力実感

「アカデミックスキルⅡ」研修でオブジェ制作

1年次後期の全学必修科目「アカデミックスキルⅡ」の開講を直前に控え、前期「アカデミックスキルⅠ」から授業支援で活躍するリーダー学生10人を対象とした夏季研修を20日(火)から22日(木)までの3日間、1304講義室Mとアカデミックスキル支援センター学生指導員室で行いました。

「アカデミックスキルⅡ」はグループワークを積極的に取り入れているのが特徴で、リーダー学生にはグループ活動の「潤滑油」としての役割が期待されています。

1日目は担当の渡邊淳子准教授の「レポート作成の基本」と題した講義で開幕。引き続き、リーダー学生はグループワークを行う際に予想されるトラブルへの対応策を話し合いました。2日目、3日目は、チーム全体のスローガンを考え、その言葉のイメージに沿ったオブジェ制作に汗を流しました。一見、授業とは関係ないように見えますが、発案した渡邊准教授は「協働して何かを成し遂げる中から達

完成したオブジェと、夏季研修に参加したリーダー学生、スタッフ



成感覚や充実感を体験させたかった。この経験の有無により、今後の学習会等で得られる効果に大きな違いが出てくる」と、狙いを話してくれました。

オブジェは四つ葉のクローバーをモチーフに、全員の手形を配した直径1.8メートルの見事な作品です。中心にはみんなで決めたスローガン「咲」の文字が大きく躍っています。

型破りな研修内容に、当初、学生たちは戸惑った様子でしたが、オブジェの内容を話し合い、作業が進むにつれ、まるで文化祭のような活気ある雰囲気。完成した作品をセンター指導員室の壁に設置した瞬間、感極まって涙を浮かべる学生もいました。

リーダー学生は今後、今回の研修や前期 Semester から継続して行われている勉強会で培ったスキルを糧に、受講学生のサポートを行っていく予定です。

(アカデミックスキル支援センター・松尾健志郎)



自分たちで考えたトラブル対処法を発表する参加者



メインテーマ「咲」の文字は、書道準8段の参加者が50枚に上る書き直しの末に完成させました



参加者が知恵を出し合い、それぞれに役割を果たしながら、作業は進んでいきました。

3大学の学生60人 オンラインで交流

本学と韓国・大邱保健大学、タイ・コンケン大学による「学生間交流」が17日

（土）、オンラインで開催され、計約60人の学生が交流を行いました。

今回のプログラムは例年現地で実施している「交換研修」の代替プログラムで、コンケン大学との交流は3年ぶりです。また初の3大学間でのオンライン交流となりました。

午前中は各大学や各国の文化について紹介しました。午後は専門領域に分かれ、各国の医療制度などについてのプレゼン、興味のあるテーマなどについてグループディスカッションを行いました。

学生同士の交流を深めるため、事前にSNS（主にLINE）で学生同士の交流の場を設けていましたが、なかなか交流が進まない中で当日を迎えることとなりました。し

かし、当日は会話も弾み、楽しそうにプログラムに取り組んでいました。

プログラム終了後、学生たちは交流を通じて友達ができたと、「来年度も学生間交流に参加します！」「韓国語の勉強を始めます！」などと意気込みを語っていました。（学術振興課）



熊本の文化についてプレゼンする本学の学生たち

インフォメーション

◆令和4年度（9月期）2・3年生保護者会 10月4日（火）まで、オンデマンドで開催しています。臨床実習を控え、実習等について保護者に説明するために全体

会・分科会の動画を公開しています。保護者会専用特設ページ（各学科・専攻）に掲載し、保護者および学内教職員を対象としています。（就職・実習支援課）